

「大学生のためのお金の教室～預貯金だけではダメですか？」

ファイナンシャルプランナー 江尻 正幸

先月は少額からでも出来る投資について取り上げました。しかし、実際に投資をしたことがない方にとっては、最初の一步がなかなか踏み出せないことが多いのも事実です。

ところで、預貯金（以下、預金）にも様々な種類があることはご存知でしょうか。預金も立派な資産運用の一種です。預金について学んでから、自分に合った資産運用を考えたとしても、遅くはありません。

今回は、普通預金以外の預金について知り、今後の資産運用方法の幅を拡げていきましょう。

【質問】

アルバイト代を貯めて、現在100万円ほど普通預金に預けています。

株式や投資信託に興味があるのですが、仕組みを理解してから購入したいと考えています。

しかし、それまでの期間、普通預金以外に預ける先は無いのでしょうか？

(渡辺さん 21歳 大学3年生)

【回答】

大学生時代に普通預金以外を利用することはあまり多くないでしょう。アルバイト代や奨学金が普通預金に振り込まれ、そのまま必要な分だけを都度引き出す、という方がほとんどだと思われます。つまり、この年代の頃から様々な口座を開設している方は、とても意識が高いと言えます。

では、普通預金以外には、どのような預金があるのでしょうか？

●定期預金

まず、代表的なものが定期預金です。

これは、ある一定期間、引き出すことなく預け続けることで、普通預金よりも有利な金利で利用することができます。

例えば、100万円を1年間、普通預金に預けた場合と定期預金に預けた場合の、受け取れる利息額を比べてみましょう。適用金利は、普通預金が0.02%、定期預金が0.15%とします。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

(図1)

	金利	利息金額(税引後)
普通預金	0.02%	160 円
定期預金	0.15%	1,200 円

(筆者作成)

図1からわかるように、1年後には1,040円の差が生じます。この差を大きいと捉えるかは人それぞれですが、同じ預金でも、預け方によってはこのような違いが出てくることを知っておきましょう。

ただし、定期預金の場合、満期になる前に引き出す、つまり解約するならば、一定金額が差し引かれ、元本割れを引き起こしてしまうこともあります。

また、現在の普通預金残高のほとんどを定期預金に預けることも、避けた方が良いでしょう。いざという時、自由に引き出すことができる普通預金に一定の残高を保っておくならば、急にお金が必要になった際に対応できます。渡辺さんの場合、今後、就職活動が本格化してくるにつれて、これまでよりも出費が増えることが予想されます。こういった点も考慮して、預入額を決定すると良いでしょう。

6月や12月といった、多くの企業でボーナスが支払われる時期になると、金利の上乗せキャンペーンが実施されることもよくあります。また、インターネットを利用することを検討してみましょう。インターネット専門銀行だけでなく、多くの既存の銀行がインターネットに口座を開設できるようにしています。インターネットを利用した場合の適用金利の方が、通常よりも高いことが多くあります。預入時期や、どこの銀行・支店に預けるかを比較・検討し、少しでもお得な金利を適用させることを考えてみることも面白いです。

●積立定期

これは、毎月一定額を積み立てていく預金商品です。例えば、当分使う予定が無いまとまった資金は手元に無いが、1万円程度なら毎月貯めることができるという方や、自分でこつこつお金を貯め続ける自信が無い、という方に適しています。

目標額や期間を設定し、毎月一定額を積立定期に充てていくなれば、半ば強制的に毎月貯めることができます。

渡辺さんが、普段の生活や就職活動を考慮した場合、定期預金にまとまった資金を預けることは難しいかもしれません。しかし、それでもある程度のお金を貯めたいと考えるならば、この積立定期を利用することも一つの手段と言えるでしょう。

●まとめ

世の中には様々な金融商品や投資手法があふれています。株式、投資信託、FXなど、お金を殖やしたいけれど、何から始めたら良いかわからないという方もいらっしゃるでしょう。

さらに、少子高齢化が進むことで、公的年金等の社会保障の先行きも不透明に感じることもあります。世界的な経済悪化や日本企業の将来のことなども踏まえ、自分で自分の将来の資金を若い時期から用意していく必要性を感じることもあるはずです。

しかし、いきなり投資を始めるのは怖いという方は、まず今回説明した様々な預金を勉強してみることから始めてみてはいかがでしょうか。上記以外の預金商品も、もちろんあります。そして、少しでも多く貯めつつ、お金のことを学び、焦らず一歩ずつ、自分に合った資産運用を行っていくことを考えていきましょう。